

# 第1回五霞町立学校のあり方検討会会議録

日 時 令和元年10月30日(水)  
午後1時30分から  
場 所 五霞町中央公民館 A 研修室  
出席者 五霞町立学校のあり方検討会会員 21名  
各学校教務主任 3名  
教育委員会 教育長 事務局職員 6名

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 役員選出
- 5 協議事項
  - (1) 五霞町立学校のあり方検討会～なぜ今なのか～
  - (2) 今後のスケジュールについて
  - (3) 五霞町立学校の現状について
- ア 町の学校教育
- イ 各校の現状
  - 五霞町立五霞東小学校学校紹介
  - 五霞町立五霞西小学校学校紹介
  - 五霞町立五霞中学校学校紹介
- ウ 保幼小中連携
  - 五霞町保幼小中連携・接続推進事業
- (4) その他
- 6 閉会

## <質疑等>

質問1 取組みの中で特別の教科として道徳とありましたが、これについて簡単に教えていただけますか。

事務局 道徳というのは、今までは教科ではありませんでした。教科とそれ以外の違いで分かりやすいのは教科書があるかどうかです。以前道徳の授業で使っているのは資料集ということでした。ところが今回からは、教科書を使うことになりました。教科の場合、評価として、普通の評価で言うとA、B、Cや3、2、1等をつけられます。道徳は教科になって評価しますが、

A、B、Cや3、2、1といった評価は馴染まない。そのため文章による評価になります。これが特別の教科と言われる所以です。他にもありますが、顕著なものはこの2つとなります。

質問2 何年生が対象ですか。

事務局 義務教育9年間すべてとなります。

質問3 不登校、引きこもりも多いと思います。成果と課題の中で、長欠(不登校)児童生徒の解消とありますが、どのような努力をされていますか。

事務局 まず長欠と不登校についてですが、長欠は病気等で来られない生徒も含まれます。不登校とは、それ以外の理由で来られなくなっている子ども達のことになります。主に学校として課題になるのは不登校です。家庭訪問をしたり、電話連絡等を継続的にしていただいて、登校再開ができるように大きな努力をしていただいております。後は関係機関との連携を図り、解消に向けて取り組んでおります。

意見1 五霞町では義務教育9年間が終わると、県境の町で高校がないので、高校進学等の際に適応することが困難になることが懸念されます。小学校、中学校の学校教育の中で、先生も家庭も地域でも不登校を無くすように努力をしてほしいと思います。

質問4 原因などはいくつもあるのでしょうか。主に为什么呢。

事務局 調査によると一番大きな原因は人間関係、友達関係となっています。

質問5 友達関係がうまく保てなくなるその原因というのは为什么呢。その辺まで遡っていかないとなかなか解決までいかないのではないかという気がします。小さい頃から多くの子どもたちと遊んだりしていない、そういったことが根本的な原因になってしまうのではないのでしょうか。

事務局 私もごもっともだと思います。コミュニケーション能力の育成が充分なされていないために友人関係に悩んでしまい不登校になってしまうかと考えています。

質問6 もっと掘り下げると、子育ての保護者にまで行ってしまう。どうしても今はお勤めしなければならない。子どもが親にいてほしい時間にはなかなか帰れないという原因もある。子ども達の間ではなかなか思うように行かないと、学校が面白くなくなってしまう、それが不登校となってしまうのではないか。なかなか難しい。社会環境も影響してくると思うが、不登校の数値的な推移というのはどうなのでしょう。ここ10年ぐらいでどんな推移をしているのでしょうか。簡単をお願いします。

事務局 簡単に申し上げますと横這いです。

質問7 最後に保幼小中連携の話がありましたが、大変よい取組みだと思います。資料1の5ページにあります「基本的なしつけを受けないままに学校に入学してくる子どもの増加」という課題がありますが、ほとんどの子ども達

が幼稚園、保育園に通ってらっしゃると思いますので、家庭でのしつけということなのか、もう少し詳しく説明してもらえますか。

事務局 資料 1 の 5 ページにありますのは、五霞町だけの課題としてではなく、全国的な課題として挙げさせていただいているものです。基本的には家庭ということになると思います。

しつけを受けないまま、というのは全体的な傾向ではあるのですが、五霞町では家庭教育学級等で自己肯定感、自分自身を大切にするとということから、しつけでこうしなさいというのを家庭に押しつけるということではなく、気づいていただけるような話をしています。また、訪問型の家庭教育支援を今年度 11 月からスタートします。就学前、年長児のご家庭を全戸訪問させていただきまして入学前まで家庭の中でこういったことが必要ですよと、情報提供していきます。訪問する際に保護者に伝える機会がありますので、この会議の中で何かご意見があればいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

意見 2 一番大切なことですよね。今年から学校に上がる前の家庭を全戸に訪問されるのですね。非常に良い取り組みだと思います。保護者の方もお仕事で非常に忙しい中、手が抜けてしまうということもあろうかと思います。うまくフォローすることは大事なことだと思います。

意見 3 今の説明を聞いていても、今の子どもたちは恵まれていると思いました。学校に伺う機会も多いのですが、子ども達も生き生きとしていて、うらやましいと思っております。ただ、先ほどの話の中に、家庭教育、基本的なしつけを受けないまま学校に入学する、これは今のお父さん方、お母さん方を育てたのは私達なのです。私たちの教育が子ども達にしっかりできていなかったからだと思います。その子達が親としてしっかりとした教育ができていないのかなと思いました。

しかし、子どもに罪はないので、せっかくこういった機会を得ましたので、よりよく子ども達を育てていけるような話し合いができれば最高だと思っております。

意見 4 少なくなるばかりの数字が出ているのですが、外国の方が入ってきて、学校教育の中でもメリット、デメリットがあると思います。グローバル化といっても、日本で生まれ育った外国の方は、英語は話せない。そういう子ども達も相対的に住みやすい町になってほしい。結婚できないということも少子化に拍車をかけていると思います。また、道徳教育の中で生きるということを真摯に語りかけてほしいと思います。